

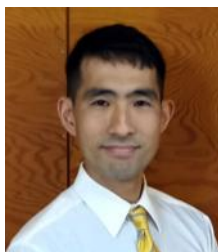
合 同

No. 490

「新しい革袋」

屋代教会牧師

石坂 和久



「新しいぶどう酒を古い革袋に入れる者はいない。そんなことをすれば、革袋は破れ、ぶどう酒は流れ出て、革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。そうすれば、両方とも長もちする」(マタイによる福音書9章17節)。

この言葉はイエスさまが語られた言葉として知られていますが、そもそもどのような状況の中で語られた言葉だったのでしょうか。

場所は、宴会の席です。この宴会の主催者は徴税人であったマタイ。イエスさまに招かれ、イエスさまの弟子となったその喜びから開かれた宴会でした。この宴会にはイエスさまの弟子のほか、徴税人も大勢いました。そのような宴会の席で、飲み食いする弟子たちの姿を見て、イエスさまにこう問いかける人々がいたのです。「わたしたちとファリサイ派の人々はよく断食しているのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しないのですか」(33節)。断食の習慣を持つ人々にとって、断食をしないイエスさまの弟子たちの姿は理解しがたいものであったのでしょうか。

当時、断食は、それに伴う肉体的苦痛を通して、深い罪の自覚と恐れをもって神の前に出る、熱心な祈りと悔い改めを表すために行われました。当時のローマ帝国による支配、これは神の民を自認するユダヤ人にとっては屈辱の状況でした。そしてこの状況が、自分たちの罪が招いた結果であると、彼らは考えていたわけです。そこで彼らは一日も早い救い、すなわちローマ帝国からの解放を願い、その実現が一日でも早く訪れるようにと、神の前に断食をし、罪悔い改めていることを表していました。すなわち断食は救われるための行為であったということです。

しかし、イエス・キリストの十字架と復活による贖いによって、大きな転換が起きました。救われるための断食はもう必要なくなり、救われるための信仰は、救われた者としての信仰となったのです。救われるために懸命に生きてきたわたしたちに、救われた者として喜んで生きる道が開かれました。

それは言葉を換えるならば、神に愛されようと努力する生き方からの解放と言ってもいいでしょう。わたしたちは、神に愛されようとする生き方から、神を愛する生き方、そして神が願われるように、隣人を愛する生き方へと導かれています。この生き方の方向転換が、新しい革袋の示すものです。救われよう愛されよう生きてきたわたしたちが、今度は救われた者として愛する者として生きていく、それこそがイエス・キリストの教えであり、その生き様が指し示すものです。わたしたちの内に注がれた福音という新しいぶどう酒、神の愛が、わたしたちという革袋自体を新しいものへと造り変えたのです。

わたしたち教会は、いつの時代、どの場所にあっても、神を愛し隣人を愛するために存在しています。この教会の存在理由は決して変わりません。しかし、その愛し方、具体的に何をしていくかについては変わっていくものもあるでしょう。ここにもまた新しい革袋が指し示すものがあると思います。時代によって、場所によって、隣人を愛するその愛し方は変わっていくということです。それはわたしたち一人一人も同様です。それぞれが遣わされている場所、関係があります。そしてそれぞれに委ねられている賜物があります。それら神が委ねられたものを用いて、そこで神を愛し隣人を愛するためになにができるかを日々考え、行動していく。ここに信仰生活の面白さがあります。

わたしたちは救われています。赦されています。愛されています。だから、わたしたちはもう、救われるために、赦されるために、愛されるために生きる必要はないのです。わたしたちは今、この救いを伝えるために、隣人を赦し、愛するために、生かされています。

お一人一人に、聖霊の満たしと導きとが豊かにありますように。